産業技術委員会

3月1日（金）広島市において、約50名の出席のもと、2023年度産業技術委員会を開催しました。

当日は、㈱AIST Solutions（アイストソリューションズ）代表取締役社長の逢坂清治（おおさかせいじ）氏によるご講演の後、当委員会の2023年度事業実施結果および2024年度事業計画（案）について報告・審議し、原案どおり承認されました。ここでは、講演の概要を紹介します。

「科学技術立国日本の夜明け」

株式会社AIST Solutions
代表取締役社長
逢坂　清治 氏

昨年の３月末まで、TDKの戦略本部長を務めていた。まずは、日本の失われた30年とは無縁で成長し続けたTDKの沿革・成長戦略等、続いて、アイストソリューションズの展望等について、お話しする。

■日本の大学発ベンチャーＴ社の成長の足跡

TDKは90年前にできた東京工業大学発のベンチャー。創業者である齋藤憲三が、約100の事業の失敗の末に、東京工業大学が発明したフェライトを預かり受け、スポンサーの力を借りながら、苦労して創業したのが大学発ベンチャーだったTDKである。

TDKはまずフェライトで成功し、次々とフェライトで培った電子材料技術を発展させ、これにいくつかの製法とプロセス技術を掛け合わせることにより、次々と事業を生み出すコアコンピタンスを確立した。これが失われていない30年に繋がることとなる。

例えば、1980年代に売上の半分を占めていたカセットテープは消えていったが、コアコンピタンスがしっかりしているため、次々と新しい事業が生まれた。

この話を若い世代に実話で継承するために、「７つのストーリー」の制作を続けている。全てのストーリーに共通するのは、技術よりも人が起点であり、ビジョナリーリーダーのしっかりしたビジョンがあって、その先に技術・ものづくり・営業力等のベストプラクティスがあるということだ。

例えば、ハードディスク事業については、ハードディスク自体は作らず、心臓部となる部品を進化、発展させることで、インダストリアルハブとなり、バリューチェーンを作って成功を収めた。

また、バッテリー事業では、最後発ながら、リスクを取ってベンチャー企業を買収し、お客さんが求める理想原価・理想リードタイム・理想品質の実現により、スマートフォン市場でのシェアを確立した。

TDKの社是「創造によって文化、産業に貢献する」には、何とか地域に産業をという創業者齋藤憲三のビジョンが、社訓の「夢・勇気・信頼」には、日本に工業をもたらそうと齋藤の下に結束した５人のビジョンが表れている。

■AIST Solutionsが取り組む National Innovation Ecosystem

アイストソリューションズは、昨年４月に設立され、日本の産業力強化に貢献するナショナルイノベーションエコシステムの構築を目指し、東京とつくばにオフィスを構え、150人体制で活動している。

産業技術総合研究所（以下、産総研）の8,800人の技術者が持つ技術を社会実装するために、知財、研究設備、技術コンサルティングを活用し、共同研究やプルーフオブコンセプトを通じて新たな事業を創出していく。

また、産総研の７つの技術領域を組み合わせて、６つのソリューション領域を提供しており、例えば、エナジーソリューションについては、FREA（福島再生可能エネルギー研究所）を再生可能エネルギーの総合エンジニアリングの場として多くの企業と大型共同研究を行っている。

産総研の技術は、国際的にも注目されるほど非常に高いものだが、これまで独立行政法人の制約と技術のサイロ化という課題もあり、世界の国研に比べ産学活用が遅れていた。

ついては、産総研の技術等についてご興味がある場合は、まずはアイストソリューションズへお問い合わせ・ご相談をお願いしたい。

HP：https://www.aist-solutions.co.jp/

（担当：永安）